

【ガイダンス参考資料】

# 「信州上田学」開講にあたって

---

地域づくり総合センター/環境ツーリズム学部 松下重雄

# 信州上田学とは

---

- 地域の方々によって創設された長野大学は、地域貢献の先駆的の大学として地域学の研究と教育に取り組んできました。
- 2017(平成29)年度から上田市の公立大学となり、より一層地域貢献できる学びの体系として初年次から4年次まで地域課題の解決に取り組む地域協働型教育を推進しています。
- 講座「信州上田学」は、そのスタートアップ科目です。

# 上田に学び、上田メソッドをつくる

---

- 21世紀社会は、市民、企業や行政を含む組織等が主体で活動・協働しつつ、学生世代を含む次世代と一緒にあって創り出していくものです。
- 長野大学は学生が“地域で”、あるいは“地域と”実践的に地域課題と向き合う学び、地域の皆様と協働する学びを実践します。
- 全国どこの地域においても求められる地域課題解決の方法論「上田メソッド」をつくり、上田から全国に広げていくことを目指します。

# 地域協働の学びのモデル

## ●信州上田学は、地域協働の学びのモデルです

### 2019年度の取り組み

「信州上田学」の初年次講座がスタートしました。上田を地域研究の学習フィールドとし、学部の枠を超えて地域の課題を発見し、地域課題と向き合いました。多様な地域資源（自然・歴史・文化・産業）、人的資源に触れ、学生それぞれが主体となり「地域の課題とは何か」を自ら探求することでできる能力を育成することがねらいです。学生は関心のある研究課題を選び、課題解決の方向性を持って地域研究のファーストステップがめしました。



- 担当教員
- \*1 古田睦典 (経済学・経済学部)
  - \*2 北川浩博 (企業情報学部)
  - \*3 志摩大輔 (経済学・経済学部)
  - \*4 石川義典 (企業情報学部)

「信州上田学」  
地域協働の学びのモデル



信州上田学  
ホームページ

### 上田探検隊-上田ってどんなまち？

学生がまちあるきし、上田がどんなまちかを探りました。まちに触れる、古い地図と今を見比べる。まちの歴史をデータで持ち帰る。「うえだマップ」に投稿しネットで公開。学生一人一人が自分の目で捉えたまちの姿を可視化し、上田の魅力、課題を伝えました。



### デザインから見る上田の歴史

大正・昭和の上田で特色があった商店街運動、洋風建築にフォーカスし、上田の歴史を学びました。建築美術は上田市立美術専門学校、農林美術作家から、洋風建築は建築家から話を聞き視察を行いました。そのままとしてグループごとに上田の革新を各報しました。



### 千曲川の水産資源・観光資源

千曲川の水産資源や観光資源の活用のための課題を探り、解決策を考えました。千曲川における水産資源の現状や管理の仕方、人々の営みの歴史や観光資源としての可能性について専門家や地元の人々に学び、学生の視点から地域活性化プランを出しました。



### 上田メソッドが福に来る

地域協働の学びと行われた地域課題解決の方法論である上田メソッドは、次のような特徴をそなえています。

- ①地域があることとキャンパスとを、学生の主体的・自発的な興味関心に基づき、学びのテーマを創造する。
- ②地域現場での学生と地域の多様な主体との協働活動を軸として、生きた社会を学ぶ。
- ③地域の課題解決に求められる知識や技術を学生が主体的・協働的に習得し、アイデアを創発する。

信州上田学では、こうしたメソッドを学生が習得し、地域社会に飛び立つことを支援します。これにより、若い力が活躍し、有為の力を創出する活気ある地域づくりと、バリエアブル社会の実現を目指します。

詳しくはウェブで

※2020年度2学期研究発表会  
●デジタルコンテストとは地域の情報(文書・動画・画像など)をインターネット上で公開し、市民やとりまきメディアが閲覧できる。

# 信州上田学の学びの目標像

---

- ① 地域がまるごとキャンパスとなり、学生の主体的・自発的な興味関心に基づき、学びのテーマを創造する
- ② 地域現場での学生と地域の多様な主体との協働活動をとおして、生きた社会を学ぶ
- ③ 地域の課題解決に求められる知識や技術を学生が主体的・複合的に獲得し、アイデアを創発する

これにより、若い力が躍動し、市民の力と融合する活気ある地域づくりと、バリアフリー社会の実現を目指します。